



妙高市【新潟県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成30年3月 ■ 人口：32,884人 ■ 面積：446km²
■ 担当課：妙高市教育委員会生涯学習課（平成30年3月現在）



市内に所在する歴史的・文化的な資源を文化財指定等の有無や有形・無形の別にこだわることなく、総合的に把握し、その保存・活用に向けた基本的な考え方をまとめている。市の歴史文化の特徴をふまえた8つの関連文化財群(ストーリー)を設定するとともに、個々の資源やストーリーをまちづくりに活用するために、保存活用計画の策定方針や3つの歴史文化保存活用区域を定めた。

5 歴史文化を表す つのキーワード

妙高山の信仰、信越の国境、雪と水の恵み、
農山村の暮らし、近代の観光地化

課題

- ・各地域において歴史文化資源の保存・活用の担い手が不足している
- ・身近な歴史文化資源に対する関心が低く、価値や魅力が埋もれたままになっている

保存活用方針

- ・市の歴史文化の特性や魅力を伝えるストーリーを地域活性化に結びつける
- ・歴史文化資源の保存とともに、それらを支える周辺環境の維持・向上に取り組む

保存活用のための取り組み

情報の収集・発信と新たな担い手の育成

テーマに沿った悉皆調査や、講座・散策会・企画展等の啓発事業を通して、歴史文化資源に関する情報の収集・発信・共有に取り組み、地域内の身近な歴史文化資源の保存・活用に取り組むことのできる新たな人材や組織を育成する。



歴史文化の顕彰とコミュニティ活動の活性化

文化財の指定や登録、地域を代表する偉人の生誕100年や没後150年等に合わせた記念事業を地域住民と共同で開催し、地域の歴史文化を顕彰するとともにコミュニティ活動の活性化を図る。



関連文化財群を活用したツーリズム事業の展開

関連文化財群（ストーリー）に沿って、点在する歴史文化資源をパッケージ化し、ストーリーを体感することができるツーリズム事業を展開することによって、市全体の交流人口の拡大を図る。



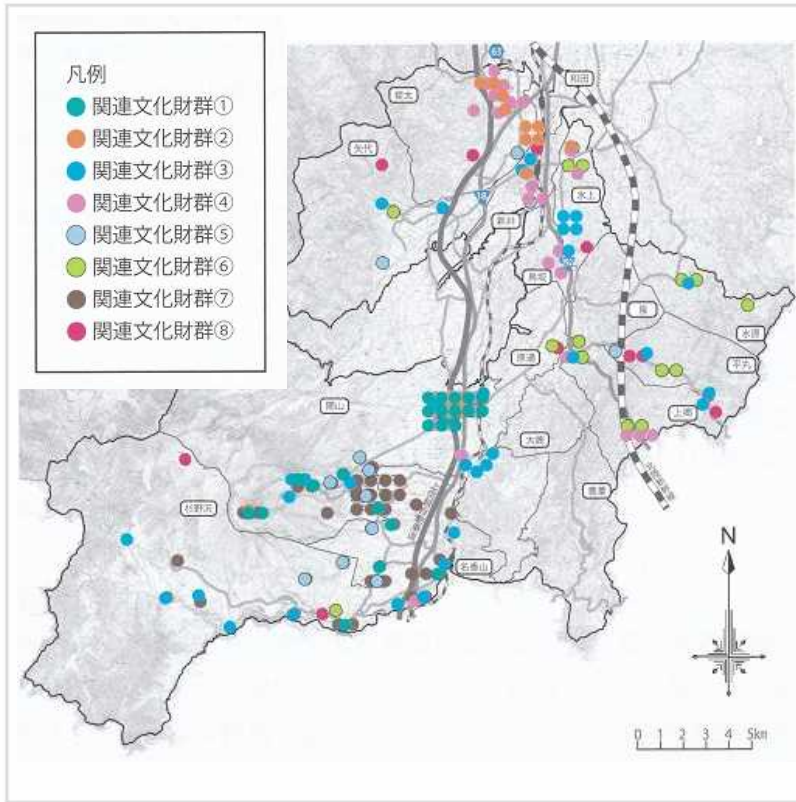
歴史文化保存活用区域の設定と保存活用計画の策定

市内の3地区を歴史文化保存活用区域に選定し、他の地区に先行して行政・自治会・地区協議会・文化財関係団体等で構成される協議会等を設立し、地域内の歴史文化資源の一体的な保存・活用に向けた「保存活用計画」の策定を目指す。





関連文化財群



妙高市が備える歴史文化の特徴を「1. 交通の要衝としての妙高市」、「2. 妙高山とともに生きる妙高市」、「3. 水と雪に恵まれた妙高市」の3つにまとめ、それぞれのテーマに沿って市内各地に所在する様々な有形・無形の歴史文化資源を組み合わせ、地域の特性や魅力を伝える8つのストーリーとして設定した。

ストーリー

- ① 妙高山の自然パワーを五感で取り込む
- ② 妙高の渡来系文化
- ③ 妙高水物語
- ④ 妙高が結ぶ越後と信濃
- ⑤ 雪国の中の雪国
- ⑥ 自然と自然になれる妙高
- ⑦ 霊山から観光の聖地へ
- ⑧ 妙高の大地を探る



策定後の成果（見込まれる効果）

① 地域住民による自主事業の実施

各地域において、受け継がれてきた固有の歴史文化を再発見し、次世代へ語り継ごうとする取り組みが出てきている。神社の社殿再建200年を記念する秘蔵文化財の一斉公開、地域のコミュニティセンター改修に合わせた歴史資料の展示や偉人の顕彰展などが地域住民によって企画されている。



② ストーリーに沿った学びの展開

8つのストーリーを通して身近な地域資源の価値や魅力を発見する講座が定期的に行われている。教育委員会生涯学習課が主催する妙高はねうまレッジ「まなびの杜」や市民団体が主催する「妙高市民大学講座」では、歴史文化に関するテーマを選定する際に歴史文化基本構想が活用されている。



③ ストーリーを活かした地域振興

8つのストーリーの設定によって、点在する歴史文化資源を新たな発想で結びつけた旅行商品の企画等が可能となり、水と信仰を介して広がりをもせる複数の庭園や滝をめぐるツアー等が企画されている。また、食を中心とした地域の産業を、その背景となる歴史文化とともに地域活性化に活用する取り組みが進められている。

